

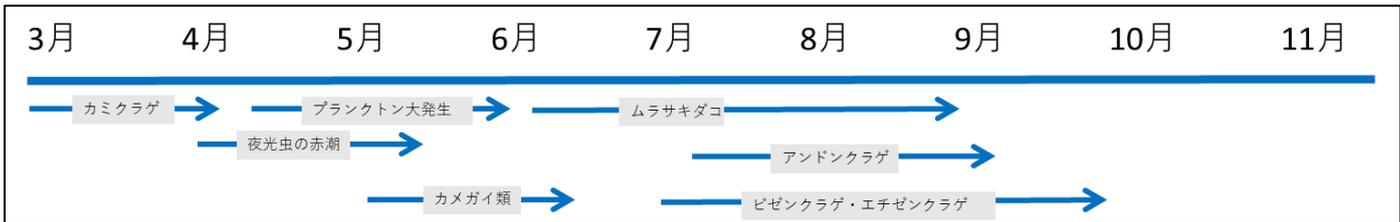
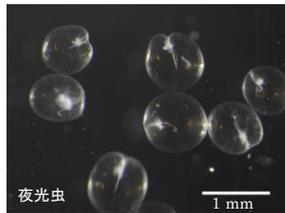


本号でジオフィールドは創刊3周年となりました。山陰海岸ジオパークの地形・地質、鉱物、海の生物や陸の生物などを紹介してきました。今後とも本ニュースレターをよろしくお願ひします。さて、今回の話題は山陰海岸で見られる「プランクトン」について紹介します。

### 山陰海岸のプランクトン四季折々

観察会などでプランクトンの話をすると、多くの方は小さなミジンコのような生物を想像します。もちろん、プランクトンの多くは微小な生物ですが、本来の定義は、水流に逆えるぐらい強い遊泳力を持たずに水中を漂う生物の総称です。そのため、水中を漂う巨大なクラゲや、海底に定着していない魚の赤ちゃんなども「プランクトン」です。一般的にプランクトンは、微小で膨大な数となるので、淡水でも海洋でも、多くの生物の餌となり、生態系の重要な一員です。

山陰海岸の海でも、多くのプランクトンを観察することができます。1年を通じて目まぐるしく種類や数が増えたり減ったりしており、海へ行くたびに毎回違ったプランクトンが見られます。下図は私個人の観察で分かった山陰海岸のプランクトン発生カレンダーです。



浦富海岸のプランクトン発生カレンダー \*年によって時期がやや左右します。ここで紹介しきれないプランクトンも海には沢山います。

浦富海岸周辺では、早春から、穏やかな海藻林で、カミクラゲという美しいクラゲが出現します。このクラゲの発生がピークになる頃に小さなプランクトンが増えてきます。同じ時期にカサゴやメバルなどの魚の赤ちゃんが海底に定着して、これらのプランクトンを食べているようです。



5月頃には赤潮が出現します。赤潮は世界各地の海で見られ、特定のプランクトンの大発生で起こります。山陰海岸では主に「夜光虫」の大発生によって出現します。夜光虫はその名の通り刺激すると青白く光る、単細胞の原生動物です。赤潮の中には、発生源となるプランクトンが増えすぎて、毒素を出したり、酸素欠乏になったりして近隣の魚が死滅することがありますが、夜光虫由来の赤潮では特にそのようなことが起こらないようです。5月中旬ぐらいからクリイロカメガイや、クリオネによく似たヤサガタハダカカメガイが出現します。これらはクラゲのような半透明のゼリー状の体をしているのですが、漂流生活に適応した貝類です。普段は沖



合を漂っていますが、風や波の方向によっては、波打ち際に打ち寄せられ、シーカヤックや磯の観察などでも見つけられます。

梅雨が終わるとプランクトンの数はガクッと減ります。夏は「ムラサキダコ」という一生漂流生活をする変わったタコが浅い海で見られるようになります。これらを観察すると全て成熟したメスで、卵を抱いているタコもいるため、沖合で産卵して、力尽きて打ちあがったものかもしれません。お盆が過ぎるとクラゲが多いと良く言われますが、そのクラゲはアンドンクラゲで4本の白い触手が良く目立つクラゲです。この触手に触れるとミミズ腫れになり<sup>いたがゆ</sup>痛痒くなります。



ムラサキダコ（長さ70cmほど）

また、夏頃から、真っ青か白色で傘の直径が20cm以上になる「ビゼンクラゲ」が出現し、茶色で傘の直径が50cm以上になる「エチゼンクラゲ」も出現し、9～10月頃に発生ピークを迎えます。これらのクラゲも触手を触ると痛痒くなるので、触れない方が無難です。



ビゼンクラゲ

秋が深まると、海は荒れやすくなり、プランクトンの出現は収まりますが、それでもよく目を凝らしてみると様々なプランクトンが海を漂っています。

このように浦富海岸では、春先から梅雨ごろの4～5ヶ月の間に急激にプランクトンが増殖・発生し、様々な種類が出現しては消えていきます。実際の海では、カレンダーのように単純ではなく、対馬暖流によって南方から流れてきたり、普段は沖合にいるようなプランクトンが、台風などで浅い所に打ち寄せられることもあります。そんなこともあり、海へ行くごとに毎回違ったプランクトンを観察することができます。



エチゼンクラゲ

## 危険なプランクトン

海のプランクトンの中には刺されると強く痛むクラゲも少なくありません。山陰海岸では、あまり知らされていませんが、梅雨明け前に海に漂っている「ケムシクラゲ」が最も痛いクラゲかもしれません。ケムシクラゲは一見、細長いロープのようですが、小さな1匹1匹が集まって群体を形成するクラゲで、長さは2m以上になります。触れると強烈な電気ショックを受けたような痛みが走り、何日かそれが続きます。市販の薬が効かないこともよくあるので、早急に皮膚科などに行くことをおすすめします。



ケムシクラゲ

©BlueLine 田後

## 身近に海のプランクトンを観察する

淡水のプランクトンは中学の理科の授業などで顕微鏡を使って観察しますが、海のプランクトンは、比較的大きなものが多く、スキューバダイビングやシュノーケリングなどで直接観察できます。また、シーカヤックや磯遊びでも、透明なケースを持っていけば掬って観察できます。最近子ども向けに「チリメンモンスター」を探すイベントが各地で行われており、海と大地の自然館でも2月に開催します。このイベントは食品として販売されている「チリメンジャコ」から、様々な魚の赤ちゃんやプランクトンを探すもので、多種多様な海のプランクトンを知る良い機会です。ぜひご参加ください！（小矢野：旧姓 太田）

イベント

1/17 (日) 10:30～11:30 (1回目) 世界に一つだけの岩石標本をつくろう (申込受付中)  
13:30～14:30 (2回目)

1/24 (日) 10:00～12:00 弁当パックで地形立体模型をつくろう！（1/10から受付開始）

2/ 7 (日) 9:00～12:00 チリメンモンスターを探そう！（1/24から受付開始）



詳細は  
こちら！